

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地1		
自己評価作成日	平成27年6月29日	評価結果市町村受理日	平成27年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000454-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一員として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな、支援ができるよう取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望に沿った、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、街の中心部にあり、隣接の法人病院は、長年にわたり、地域住民との関わりが深く、利用者の家族や知人が、受診の帰りに気軽に立ち寄っている。地域の伝統行事には、庭を開放し、住民と共に取り組み、職員・利用者も参加している。管理者・職員は、利用者を「見守り、見逃さない」を基本に、笑顔で暮らしてもらえるよう、細やかな支援を行っている。また、職員が働きやすい職場環境を築き、資格取得支援制度を整え、専門性を磨いている。法人は、病院を中核に、グループホーム・小規模多機能型居宅介護・介護付有料老人ホームを運営し、地域福祉の拠点的役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、実践できるようつとめている。利用者様が築いてきた、人間関係や地域とのつながりを大切にし、笑顔で穏やかな生活が出来るよう支援している。	理念は、見守ります・見逃しません・笑顔を引きだすと掲げている。日常の場面で、実践の経過を振り返り、職員間で共有している。利用者の笑顔を引き出し、地域との関わりを大切に、穏やかな、その人らしい暮らしができるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の協力で、春、秋の祭りなどは、苑に出向き実演してくれたり、白鳥踊りでは、会場を提供して利用者様も楽しんでいる。幼稚園の鼓笛、小学生のボランティアなど、日常的に交流できている。	自治会と協力し、地域住民と共に、地域の伝統行事開催に取り組んでいる。白鳥踊りでは、ホームの庭を開放し、利用者も共に楽しみ、小学生の体験学習や幼児の訪問があり、日頃から、地域の一員として交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られたり、聞かれたりすれば、理解していただけるよう、お話をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の方の家族、市の職員、自治会の方など施設の関係者以外の方の意見が聞け、サービスの向上に活かしている。	会議には、行政や地域関係者、利用者、家族が参加をしている。運営の現状を報告して、意見を交換している。災害訓練の検証と反省を踏まえ、改善をしている。他にも多様な意見があり、サービスの向上につなげている。	運営推進会議の日程を工夫し、時には、利用者の日常を見てもらい、交流を兼ね、家族の意見が反映できるよう、事業所内でも開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入れ、市の高齢福祉課などの方との協力により、アドバイス、意見を交換するなど連携を深めている。	市の担当者とは、日常的に連絡をとって情報交換をしたり、困難事例などで相談をしている。運営推進会議の場でも、介護保険の改正や要点の説明を受けている。行政主催の研修会に参加したり、介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、利用者様の安全を考え、やむを得ない場合は、家族様に同意をもらい行うことがある。	身体拘束をしない方針で取り組んでいる。職員は、拘束の事例や弊害を、常に学習をしている。止むを得ず、拘束が必要な場合は、家族と十分に話し合い、共通認識の下で、安全を考慮しながら 一時的なものとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が理解していて、虐待がおこらないよう努めている。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	理解できていない職員もいる。 今後研修、学習会などがあれば参加して学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前、入所時、家族様には、十分な説明、理解をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族の方に意見、要望など聞いている。敬老会、家族会、運営推進会議に出席された家族の方より、意見、要望を聞き運営に反映している。	利用者の家族とは、運営推進会議や訪問時に、意見交換をしている。家族から、職員の顔と名前が分かりづらいとの意見があり、写真入りの職員名簿を掲示し、職員のユニフォームにも名前を刺繍するなどして、改善し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議などで職員より、意見や良い提案などがあればケアに反映している。	定例のケア会議や申し送り時は、職員の意見、気づきや提案のできる環境であり、職員の働きやすい勤務体制も整えている。職員からの行事の企画を受け、コミュニケーションを図りながら、向上心の取り組みなどを話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための支援を行っている。また、昇給や資格手当の支給等により、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会など、参加の機会がある。自らが利用させていただくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。研修会の参加などしている。他施設の交流はあまり行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活習慣等理解して、利用様の方の不安に思うこと、要望をされることを聞き入れ、安心していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と良い信頼関係がもてるよう、話を聞いたりアドバイスをしたりしている。苑便り、個人便りなどを家族様に送り、生活の状況を知ってもらい安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様との情報で、サービス計画を作成し、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の方の気持ちを理解し、安心できる相手でいられよう努めている。尊敬の心で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に何かあれば、家族様に連絡して意見を聞いたり、相談に応じたり、信頼が得られるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人、友達の方には、いつでも来ていただけるよう伝えている。希望の店に買い物に行ったりするのは、難しい方もおられる。少数ではあるが、家族様が連れて行ってくださる方もおられる。	隣接する医院へ通院している住民や、買い物帰りの友人、親戚の人などが立ち寄ることが多い。また、散歩の途中で馴染みの人と出会うこともあり、会話を楽しんでいる。地域の敬老会や行事に、家族と共に参加している人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、孤立してしまう人がいないよう、席順などにも、気をつけている。良質な関係で暮らせるよう職員が間に入って働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談されたり、聞かれたりした場合は、出来る限りアドバイスをしたり、意見を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より会話をして、利用者の方の思いや希望を知り、出来る限り希望に添えるよう努力している。	入浴介助時や他の個別ケアを通じ、利用者の思いや意向を把握している。契約時に、家族から、本人の趣味や思い、習慣など生活歴の情報を得て、職員間で共有している。また、日々の会話の中で、本人の希望を聞き、実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活情報収集に努め、利用者の方が、心休まる環境づくりに勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等で、利用者の方の体調、心身状態を知り、その人に合った一日の過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズを知り、ケア会議などで話し合い、ケアプランを作成している。 、家族様の意見なども聞き入れている。	利用者の状態を、担当職員が細かく把握をしている。加えて、全体ケア会議で話し合い、家族の要望や医師、関係者などの意見を集約し、現状に即し、利用者が自分らしく暮らせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の方の状態、訴えなど記録して、申し送りなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方のニーズにより、いろいろなサービスが受けられるよう対応している。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事、ボランティアを活用して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本医院により、日常的に健康管理されており、又、専門的治療が必要な場合は他の医療機関を受診している。 場合により、付き添いをしたり、送迎をしている。	契約時に、事業所の方針を利用者、家族に説明し、同意を得ている。利用者のほとんどは、隣接の本医院が、入居前からのかかりつけ医であり、継続している。緊急時は、総合病院と連携し、安心な医療・看護の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により体調管理されている。 必要時には、医師による診察が受けられるように看護師が関わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、訪問して情報交換し、安心して治療が出来るよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、意見・希望を聞く。重度化した時、家族に連絡をしてその都度家族、医師、看護師、介護職員と話し合い、望まれれば終末期のケアも行っている。	重度化や終末期に向けた、事業所の指針があり、家族と関係者で共有をしている。状態の変化に応じ、家族、医師と十分に話し合い、同意の下で、終末期のケアに対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が訓練を行っていない。 今後対応できるよう努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。 消防職員の指導を受け、自治会の方の参加もあり、地域の方との協力体制が出来ている。	災害訓練は、消防署協力のもと、昼夜を想定して実施をしている。地域との協力体制も整い、関係機関への連絡、器具の取り扱い、初期消火、避難誘導などの訓練を行い、災害時の対応力を身につけている。	さらに、地震や水害にも対応できる自主訓練の検討に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格などを知り、一人ひとりを尊重し、声かけや接し方に注意している。	利用者を人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけない言葉かけや対応を行っている。職員は、常に笑顔で寄り添い、本人の気持ちに向き合っており、細やかな支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いの理解に努め、自己決定が出来るよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿っているが、本人の体調、希望を理解し、その方に合った過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ったり、本人の好みを配慮した服装、清潔感が持てるよう支援している。家族の方に協力もあり、季節に合ったものを持っていただくなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなど、出来ることはやっていたいしている。 オヤツ作りや、年に数回昼食を作り、職員と食事をする事もある。	管理栄養士の指導の下、一人ひとりに合わせた、最適な形態の食事を提供している。食堂からは、料理の匂いが漂い、食欲を誘っている。利用者は、テーブル拭きなどの準備に関わり、郷土料理づくりは、職員と共に、楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、一人ひとりに必要な栄養、量、形態など配慮している。水分不足になりがちな方は水分ゼリーなどを提供、熱中症予防のため、こまめに水分補給を実地している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを必ず行っている。 夕食後は、入れ歯洗浄剤を毎日使用している。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	快適な排泄習慣をつけてもらえりように、排泄チェックし、できる限りトイレで排泄できるように声かけをして、介助している。	利用者の排泄パターンを把握し、昼夜共、細かな声かけとトイレ誘導で対応し、快適な排泄習慣につなげている。一部の人のみ、安全面に配慮し、夜間はポータブルトイレ利用をしているが、排泄の自立のため、細かく観察して、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にして排便状態をチェックし、食事内容、水分、運動など対応している。看護師や医師に相談して必要時に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方の希望する時間帯での入浴は難しいが、体調面、精神状態に問題のある方の入浴は、日にちを変更している。	入浴は、体調に合わせて柔軟に対応し、利用者には、見守りと介助で、安心して入浴を楽しんでいる。リフト浴と機械浴も設置している。入浴拒否の人には、気分に合わせて、無理のない支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の良い方は、日中散歩運動など行っている。夜間、安眠していただくため、昼食後横になって休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の作用を理解して介助している。薬によって症状に変化のある方は、看護師に伝え、医師の指示などあおぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の出来る事を知り、毎日の生活の中でやってもらうよう働きかけている。レク活動、行事など楽しい時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外気浴、散歩など行っている。一人ひとりの方の希望通りの外出は無理だが、家族の方には外出に協力して下さる方もおられる。	散歩は、天候に合わせ、日常的に支援をしている。また、広い庭での外気浴も日課である。家族には、本人の外出希望を伝え、協力を得ている。年間行事では、桜見物、紅葉狩り、ゆり園などへ出かけている。	

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止上、苑で管理している。 必要なときは、希望に応じて職員同行対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の希望により対応。 職員が利用者様より用件をお聞きし、電話さえていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔、風通し、日差しなどに配慮している。 季節の花を飾ったり、季節に合った掲示物を張るなどして工夫している。	窓越しに、住民の話し声が聞こえ、生活感、季節感を味わうことができる。庭で育てた季節の花や、手づくり作品を、部屋いっぱいに飾っている。気の合う仲間同士が、廊下のソファで会話を楽しんだり、折り紙などをして居心地よく過ごせる場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、、2階、廊下などに椅子を置くなどしている。気の合った方など昔話などして過ごしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているもの、孫の写真、作品など飾っている。元気な方は、自分の思うように工夫されている方もおられる。	居室の入口は、一般家庭のような造りである。風通しがよく、室内まで日光が注ぎ、明るい空間である。ベッド、寝具は備え付けで、こまめにシーツ交換し、清潔である。家族の写真や手づくり作品を飾り、本人好みの部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに自分で行けるよう、ベットの配置などを考慮している。 2階の方は、エレベーターを使用し、行き来している。 安全に生活できるよう工夫している。		